



# 子どもの楽しみと大人の愉しみ

実物をよく写し、小さくつくられたもの。日本では、モノや世界観を縮小化することに親しんできた歴史が長く、すでに縄文時代にはミニチュア祭祀具の存在が認められます。

ミニチュアには、一定の縮尺で再現したものと、縮尺に統一性はなくとも再現する対象の特徴を巧みに抽出し、造形のバランスに注力したものとがあります。前者は建築模型や雛型、ドールハウスなどであり、後者はままごと道具や人形、節句飾りの雛道具、箱庭などが挙げられます。また、縮小化の背景には、子どもの手遊びとして求められた実用性や、大人の鑑賞のまなざしに呼応してより小さなことに傾倒していった嗜好性などがみられます。

例えば、ままごと遊びに用いられた調理器具や食器、茶器類は、子どもが遊びながら学ぶツール、家庭教育の教材としての意味を持つ玩具です。これらは、「小さい」といって手に持って遊ぶことのできるサイズを維持したものです。一方、大人が求めたミニチュアは、遊ぶことを目的とせず、一寸に満たないような規模の中で細部の造作や動きの再現性などにこだわり、見ること・愛でることに重きを置いた、いわば工芸玩具といえるものです。そのこだわりは、何気ない日用品の縮小化にも反映されるものでした。

本展では、江戸時代から昭和時代にかけて製作されたままごと道具やミニチュア台所道具類を中心に、子どもと大人、それぞれの用途と嗜好を探ります。ミニチュアは使用者・所有者、時に製作者の姿を雄弁に語ります。同時にまた、それを手にした者たちがかつて見た景色や時代を今日に伝える資料でもあります。小さなものが写し出す、時代と興味をご覧ください。



1 磁器製ミニチュア食器類 江戸時代後期～明治時代初期 川内コレクション 2 陶器製ミニチュア食器類 明治時代 川内コレクション 3 大深町遺跡(梅田墓)出土のミニチュア炊事道具 江戸時代末期～明治時代(一財)大阪市文化財協会蔵 4 東京大学本郷構内遺跡出土の急須 江戸時代後期 東京大学理蔵文化財調査室蔵 5 ままごと道具セット 昭和10年代 日本玩具博物館蔵 6 ままごと道具(ブリキ製調理器具) 昭和20年代 日本玩具博物館蔵 7 ミニチュア化粧道具(白粉重 油壺 紅猪口) 大正時代後期～昭和時代初期 当館蔵 8 台所道具 万延元年(1860) 七澤屋製 個人蔵

## 併催イベント

### 記念講演会

## 「日本ミニチュア略史」

2022年11月12日(土) 14:00～15:00

講師: 林直輝氏なおてる(日本人形文化研究所 所長)  
 定員: 会場12名、オンライン80名 (Zoom配信)  
 参加費: 500円 (企画展は別途観覧料が必要)

申込方法等の詳細は  
 当館webサイトをご覧ください。

新型コロナウイルス感染予防・拡大防止のため、予定を変更・中止する場合がございます。最新の情報は当館webサイトをご確認ください。

### 【アクセス】

#### 《地下鉄》

- 東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道」駅下車  
 B1出口より徒歩12分  
 B3出口(エスカレーター・エレベーターあり)より徒歩13分

※ 駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用ください。

#### 《バス》

- 渋谷駅東口バスターミナル51番乗り場  
 都01 渋谷→新橋駅前/ RH01 渋谷→六本木ヒルズ行  
 「南青山七丁目」(六本木通り沿いの停留所) 下車
- 渋谷駅東口バスターミナル59番乗り場  
 渋88 渋谷→新橋駅前「南青山七丁目」(骨董通り沿いの停留所) 下車

### 【会場】 紅ミュージアム 【企画展示室】

〒107-0062 東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビルB1F

TEL.03-5467-3735 <https://www.isehanhonten.co.jp/museum/>

